慶應義塾大学学術情報リポジトリ
Keio Associated Repository of Academic resouces

Title	2015年度藝文学会シンポジウム「幻想と文学」：はじめに
Sub Title	Symposium : Fantasy and literature : introduction
Author	粂川, 麻里生(Kumekawa, Mario) 巽, 孝之(Tatsumi, Takayuki)
Publisher	慶應義塾大学藝文学会
Publication year	2016
Jtitle	藝文研究 (The geibun-kenkyu : journal of arts and letters). Vol.110, (2016. 6) ,p.161 (110)- 163 (108)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	2015年度藝文学会シンポジウム「幻想と文学」 開催日: 2015年12月11日 (金) 場所: 慶應義塾大学三田キャンパス北館ホール 冊子には前からの通しページあり
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00072643-01100001-0161

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

2015年度藝文学会シンポジウム

「幻想と文学」

日： 2015 年 12 月 11 日（金）
時間：午後 3 時～ 5 時 30 分
場所：三田キャンパス北館ホール
講師：和泉雅人（本塾大学文学部教授）
　　藤原茂樹（本塾大学文学部教授）
　　松村友視（本塾大学文学部教授）
コメンテーター：宇沢美子（本塾大学文学部教授）
司会：巽孝之（本塾大学文学部教授）

2015年度藝文学会シンポジウム「幻想と文学」

はじめに

事務局長（粂川麻里生／独文学専攻）：事務局長を務めております独文学専攻の粂川と申します。今朝から降っておりました冷たい雨が止んだかと思えば大変な風が吹きすさび、キャンパスの銀杏の葉が落ちて地面が金色になり、今度は生暖かい空気が立ちこめ、「幻想と文学」を語るにふさわしい雰囲気が出来上がってまいりました。本日は今年で定年退職なさいます、独文学専攻の和泉雅人先生、国文学専攻の藤原茂樹先生と松村友視先生のお三方にご登壇いただき、「幻想と文学」というシンポジウムを開催させていただきます。司会は英米文学専攻の巽孝之先生、コメンテーターを英米文学専攻の宇沢美子先生にお願いしております。それでは巽先生、よろしくお願いいたします。

司会（巽孝之／英米文学専攻）：本日は大勢お集まりいただき、ほんとうにありがとうございます。粂川先生からのご紹介にありましたように、これから「幻想と文学」というタイトルで、藝文学会恒例の年末のシンポジウムを始めたいと思います。まずはその成り立ちをご説明するところから始めましょう。

まずパネリストの組み合わせですが、国文学専攻の先生がお二人と独文学専攻の先生がお一人、英米文学専攻の我々が司会とコメンテーターということで、過去前例のないバランスというか緊張関係になっているかと思います。このうち和泉先生と松村先生は藝文学会の委員長をお務めになったというご経歴もあるため、ここはぜひとも藝文学会と縁の深いこのお三方で何かテーマをひねり出せないかということになり、国文学専攻の藝文学会企画委員である石川透先生と頭をひねった結果、「幻想と文学」に決まりました。ということで、私は本日、英米文学専攻のアメリカ文学研究という専門の立場よりも、藝文学会の一企画委員としてここにおります。それから宇沢美子先生も英米文学専攻とか比較文学とかいった狭い枠組みを超えて、どのような発表や講演に対しても質問ができるという

特殊技能の持ち主としてここに登場しておられます。

そこで今回は、それぞれお得意の領域から思う存分にお話しいただきたいとご依頼しました。和泉先生は「一角獣・迷宮・幻想」について、藤原先生は、ご専門は上代文学ですけれども、今日は民俗学的な視点から「幻想の島沖縄」について、それから松村先生は日本の幻想に不可欠な泉鏡花を題材に「批評としての幻想」について、お一人 30 分位ずつお話しいただいたのち、宇沢先生にコメンテーター兼ディスカッサントとして盛り上げていただきたいと思います。それでは、最初に和泉先生、どうぞよろしくお願いいたします。